

東京からこんにちは

静岡市にゆかりがあり、東京を拠点に内外で活躍する皆様に、東京から見た静岡市の良さの可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

生かしたい 日本平の自然

白井グループ株式会社
顧問・前取締役企画部長
齋藤達哉さん



Tatsuya Saito

静岡市清水区生まれ。県立清水東高校卒業。慶應義塾大学商学部卒業。1977年、日本石油(現JXTGエネルギー)株式会社に入社。グループのエネオスフロンティア東京、ネクストエネルギー株式会社社長などを経て、業界再編で誕生したJXエネルギー株式会社を2015年退職、同年、白井グループ株式会社に転職。18年5月、取締役を退任、6月から同社顧問。64歳。
一般社団法人静岡県人会副理事長・ふじのくに観光公使。
<http://shizuokakenjinkai.jp>

怪物江川からホームラン

3年前に石油元売り最大手の会社を退職後、請われて廃棄物の収集、運搬を主な事業とする白井グループ株式会社に転職。同社は現業部門の白井運輸株式会社や白井エコセンター株式会社などグループ全体を統括・運営する会社。事業計画など中枢部門を担当し、この5月に役員を退任した。

「宅配便のような物流の世界はいわゆる動脈物流といわれ、酸素や美味しいものを運んでくるのに対し、われわれの世界は静脈物流と呼ばれ、不必要なものを集めて持

ち帰ってくるみたいなイメージですね。どちらか一方でも機能しなくなる」と市民生活に大きな支障を来たすのだ。

高校、大学、社会人野球で外野手として活躍。慶大3年の時には怪物江川卓投手(当時法政大)からホームランを左翼席にたたき込み、新聞紙上を賑わせた。社会人では常勝の名門、日本石油(当時)で現役3年、マネージャーを4年務めた。

「別荘地」も選択肢の一つ

生まれ育ったのは自然豊かな日本平の麓。「子どもの頃、日本平に登って足腰を鍛えたり、久能から

三保にかけて続く砂浜を裸足で走り回っていました」。高校の野球部時代は練習メニューに登呂遺跡の横を通って久能山の1159段の石段往復など、日本平をぐるっと一周するランニングがあった。そんな背景もあって、海や山などの自然の大切さを説く。

「静岡市の良さはいろいろありますがやはり海と山、それに川だと思います。全体像としてはこの三つを大事に、自然を生かしたまちづくりを進めてほしいですね。勝手なことを言わせてもらえば、利用の仕方次第で起爆剤になり得るのは日本平かなと思います」と日本平の価値を指摘する。

「例えば、別荘地のような自然を残したりゾーンの利用も一つの方法だと思います。日本平からは富士山はもちろん、太平洋や伊豆半島などが望める。車で少し走れば海や山の幸が手に入る最高の場所です」。

齋藤さんは「(裸足で走り回っていた)砂浜が三保の先端だけ残して削れてしまい、残念です」とした上で、「日本一でなくても、静岡の特徴を生かしたまちになってほしいですね」。

(文・写真…長田義明)